

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年11月18日（日） 午後1時～3時11分
会 場 亀久保南分館（亀久保町会）
天 気 晴れ

参加者 27人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆旧大井給食センターは、いつ頃解体されるのか。
- ☆現在は埋蔵文化財を保管している。もし解体するとなった場合、文化財の保管場所を確保する必要があるので、現状ではそのままの状況。
- ◆PHSは市の職員だけが所持するのか。
- ☆市の指定職員が所持する。
- ◆上福岡駅前のサンロードには70歳以上の方が車を駐車させるスペースがあるので、ふじみ野駅にも同様の駐車場所を作っていただきたい。また、現状では対象車とならない車が駐車している。
- ☆取り締まりをしているがそのような現状は認識している。上福岡駅の通りが出来た時にパーキングチケットの駐車スペースがあった。県の公安委員会は、パーキングチケットの駐車スペースを廃止するという事だったので、障がい者の方、高齢者の方のために残してくれと要望を行い、現在の駐車スペースが確保された。そのような経緯から新たな設置は難しい。
また、ふじみ野駅は、富士見市になる。近くに有料駐車場もあるので新たな駐車スペースを確保する事は難しいと思われるが、せっかくのご意見なので富士見市には伝える。
- ◆砂川堀の周辺の道路について、一部規制をお願いしたい旨の要望がある。（別添）
- ☆預かり検討したい。抜け道であれば通らせないのも一つだが、利用者は「なぜ使わせないのか」となる。
- ◆大井浄水場付近の道が狭くて危ない。歩道も無い。特に三澤建設のところは何とかならないのか。
- ☆道を拡幅するには費用がかかるので直ぐにできる話では無い。市内を見渡すと同じ様な状況が沢山ある。
- ◆その場所に関係する緑ヶ丘・亀久保の区画整理の話が無くなったようだが、都市計画道路もかかっていると思う。
- ☆都市計画道路は市内には何路線もある。都市計画道路上は建替えに規制があるのに、道路整備が出来ない都市計画道路が何路線もある。行政は昔からあるが、当初は道路整備が出来るとして設定をしたと思うが、難しい。
- ◆昭和54年頃に地域で説明会があった。それ以降、役所から用地の相談もあつ

た。今、亀居保育所付近に駐車場があり、その駐車場は道路の予定地なのに、道路整備を反対している。

☆緑ヶ丘・亀久保の区画整理は無くなり、白地に戻した経緯がある。せめて地区計画を定めることもできる。指摘いただいている道路が危険なのは認識している。

◆三澤建設のところは本当に狭くて危ない。通学路でもあり、毎日見ていると子どもが横向きで歩くなど非常に危険である。あの100mを何とかして欲しい。

☆すぐ対応しますとは言えないが、この要望は、きちんと考えたいと思う。

◆付近に交番があるので、協力を依頼できないか。2トン車までの通過条件があるが、大型トラック等も通過する。

☆安全対策を検討したい。

◆他の市だと15時頃にスピーカーで「小学生が帰るのでおかえりなさいと声かけをお願いします」と言っている。本市では14時半頃にスピーカーから流れてくる。小学1年生でも、その時間には帰宅しないので時間を調整して欲しい。

☆本市でも防災無線を活用し、同様のことを行っているが、放送する時間が早すぎるというご指摘は教育委員会と話したい。

◆小学校へのエアコン設置の考えはあるか。

☆私は付けたいと思っているが、現在、市の財政を必死に立て直しているところである。本市でも複数の貯金を行っているが、財政調整基金などは毎年取り崩しを行って運営していた。皆さんの協力もあるが、昨年度は6億5千万円を取り崩す予定であったが崩さないで済み、更に3億5千万円を積んだので約10億円の預金が出来た。そうなると、お金があると思われるが、例えばこの冬にインフルエンザが流行れば、医療費の支出ですぐに1、2億円が出てしまう。少しでも余力があれば蓄え、余力を付けながら事業を行っている。

隣の富士見市では設置を行うみたいだが、一昨年の夏場、西原小を見学した。

各教室では、子どもたちは元気だが、先生は汗を拭きながら授業をしていた。

風の通り方により、教室ごと全然暑さが違うし、扇風機の設置を行ってきたところである。

そこで、保健の先生に話を聞くと、日本の気候の亜熱帯化に対して、小学校の6年間は体の成長と適応力を高めるために重要な期間であるため、エアコンは不要だと話していた。ただし、昔とは違う気温なので、28・29度に抑える程度の暑さしのぎとしてのエアコン設置を考えている。エアコンについては、設置費用の他にも電気料などの維持費がかかるので、更に改革を推進し考えていきたい。

先ほど市の取組みを1点話し忘れたが、皆さんの協力によって、ものすごい改革が進んだ。ごみの分別は面倒であると思うが、皆さんの協力により燃えるごみの量が減った。合併後、大井清掃センター、上福岡清掃センターの施設で焼却をしているが、施設の老朽化が進み、毎年修理だけで数千万円、数億円とオーバーホールを行い使用していた。そのような中、新たな施設を作るところだが、大井清掃センターについては、今年4月から止めることが出来て、毎年2

億円が浮いた。これは皆さんの協力の賜物。色々なところで、協働と言っているが、協働と言うのは市役所ができないことを皆さんにやってもらうのではなくて、私たちがやるから市の税金を使うなどということを書いてくれるのが協働だと思う。

例えば、循環バスのことだが、便利に使える方もいると思うが、あの程度の利用率のバスの維持に年間3千万円かかる。それであれば、障がい者や高齢者の方に、タクシーチケットだとか補助をするなど行ない、バスを廃止するのもどうかなどの意見があってもよい。

外にも、水道料金も現在は逆ザヤであり、市が仕入れている原価より、皆さんに提供している単価が安く設定されている。合併時に「サービスは高く、負担は低く」できたが、受益者負担は別に考えるなど、合併後の節目として10年を過ぎたら見直しの必要もあるのではないかと考えている。現在の、逆ザヤの差を埋めているのは留保財源だが、毎年2億円取り崩して水道管の耐震化を進めている。それでも市内52%しか進んでいない。このような状況を理解してもらい市民と話し合いながら進めていきたい。余力を本当に必要な交通事故防止や暑さを抑えるためのエアコン設置などに充て、改革を推進したい。

私には、子育て環境を良くしたいという政治理念がある。国は、社会保障の見直しを行わなければいけない時期に来ているが、消費税率を上げて何もしない。医療保険や年金制度は、経済が成長し、人口が増加している時代に作られたものだが、生産年齢人口は1995年から下がっている。同時にGDPも横ばいにある。人口が減れば支える側が居ない。今、制度を変えていかないと成り立たなくなる。国の制度改正を待ってられないので、ふじみ野市を持続可能な市とするには、生産年齢層を増やそうと子育て支援策を推進してきた。ここ数年間で3千人が増加し、2市1町で富士見市を超えて人口はトップになった。増えた3千人の内75%が子育て世代、現役世代など着実に政策効果は現れている。その結果、今まで頑張って働いてこられたお年寄りを支えようと考えている。

今年から、学校の大規模改造工事を行う。1校2年で実施するので、今年と来年で鶴小と西中、来年、再来年で三角小と亀久保小で工事を行う。1校当たり億単位の費用がかかるこの工事を10万人都市で一度にこの数を進めていく例は無いと思う。子どもたちの環境を良くしようとするのは、皆さんの家庭でもそうだと思うが、景気が悪くなり給料が減っても、親は贅沢などせずに、自分の食べるものを我慢してでも、子どもに与えている。また、お年寄りの病院代なども同じこと。

市の予算でも320億円と言っても、その数値のゼロを取れば、家庭でも同じこと。当たり前の考え方であり、国にも言いたいと思う。

◆前々回の支部社協で循環バスの話があった。そこでも賛否両論の意見がある。無駄であるという方、私にとっては必要と言う方。

もう一つは、大井総合福祉センター内のタダ風呂はどうなっているのか。あれ

はなぜ費用を取らないのか。お金を取った方がよいという方もおられます。

ごみ分別の成果で2億円は大変なこと。2年前のテレビで福島県矢祭町のことを放映していた。町長自らが給料を減らし、議員もそれにならい、公園のトイレ掃除も自分たちで行なうなど、積極的に関わるようになっていった。それを2度見た感じである。この分別のことにしても、国のテレビ放送が出来るぐらいのことを市と市民が一体となって行なっていきたいと思う。

☆今年の12月の補正予算に載るが、ごみの取り組み事例で、既に他市で実施している良い事例として「キエーロ」というものがあり、本市でも試そうと考えている。既に堆肥化は給食センターなどで行なっているが、これは、その泥(キエーロ)へ生ごみを入れると気化するというもので、材料を市内の業者に作ってもらい、皆さんの力をお借りして市内の50箇所程度で試してみようと考えている。良い知恵があれば教えて欲しい。なおかつ皆さんの力を借りながら進めて行きたい。

◆小さい無駄を省けるような節約部節約課などを作ってはどうか。職員でなくてもよいが、様々な方向から見ることによって得られるものもあると思う。

☆良い考えだと思う。現在、若手職員と昼食を食べながら若手の意見を聞くランチミーティングを行っている。若手職員は、もっと自分のいる部署は改善できると理想を持っている。自分は、主権者の市民の方と話もしたい。市役所は役に立つ所として、市役所であると思っている。様々な目線は必要である。

◆2点聞きたいことがある。

まず1点目は、街灯のLED化について。市内には、LEDではない街灯もあるが、設置費用はかかっても電気代が下がるのでLED化を進められないか。ソーラーパネルを付けるなどの工夫もできる。2点目は、ヤマハの工場跡地から有害物質が出たと聞いたが、地下水への影響はあるのか。

☆ヤマハの話ですが、完全撤退となりまして売却するに当たり金属加工の工場だったので法的に義務付けられた土壤汚染調査を行ったところ、土壤から基準値以上の六価クロムが検出された。そこで、埼玉県西部環境管理事務所が主体で指導して、今後、土壤の入れ替えや軽減を進めている。また、汚染は大深度までではなく、浅いところだが、念のため周辺で、井戸水を飲み水として使っている方は飲み水には使用しないでくださいという案内文書を近隣に配付した。また、あの周辺では飲料用としている井戸はゼロと聞いている。また、市の水道水として汲み上げている水は200mの深さであり汚染が及ぶことは無いので安全。

街灯のLED化については、私も同じ考え。今年の当初予算の時にも防犯灯のLED化をしたいという考えがあったが、最終的に検討を進めた結果、日進月歩でLEDも進化し、単価も下がっている。初期投資はかかるが耐久性を考えると、LED化はよい。また、バッテリーを付けて停電や災害でもソーラーで貯めた電気により点灯する防犯灯や街灯の設置が出来ないか考えている。

◆公共施設の屋上へソーラーパネルの設置はできないのか。

☆メガソーラーには大きな面積が必要。私個人の案では、高速道路ののり面等へ設置することが出来ないのかと思う。防犯灯のLED化については、何とかしたい。

◆災害の話だが、6弱の地震が来た時に20箇所の避難所で最大何人が収容できる計画なのか。

☆20箇所全てで7千名程度。

◆自分が住んでいるところの避難所について周知はどのようにしているのか。

☆今の話がタウンミーティングの重要なポイントである。避難想定の数については全ての家が火事や倒壊する訳ではない想定となっている。この地区は西原小が避難所となっていることは知っていると思うが、災害が起きたら一目散に西原小に避難するのではないことをご承知置きいただきたい。震度6弱では立ってられない。まず、家の周辺の駐車場、空き地や畑などに避難して身の安全を守って欲しい。被害は震災の起きる時間や曜日で変わってしまう。季節も影響する。真冬の夕方、北風の強い時に、ものすごい地震が発生すれば、煮炊きの最中、ストーブが倒ればストーブは消えるが、何かに燃え移ってしまうこともあると思う。消防車が来られるか分からないし水道管も破損しているかもしれない。まず、震災が起きたら自分の身を守り、その次に、身の危険をおかしてまで行なう必要はないが、もし救助の必要な人が居れば、地域の人と協力して助けて欲しい。地域の結束力が高まっていれば、被害を抑えることが出来る。

12月2日の訓練では西原小になるが、地震が起きたら直ぐに西原小では無い。一時避難後に西原小を目指すことになるが、今いる場所が安全であれば直ぐに避難所(西原小)では無い。これは役員会のおりには伝えて欲しい。もちろん、自宅の周りで火災が起きれば直ぐに逃げて欲しい。災害で怖いのは火災なのでタウンミーティングでは、簡易消火栓を増やして欲しいと言われるが、一番有効なのは、皆さんのお家から初期消火を行い、火が出ないようにして欲しいということ。地震の時には立ってられないので簡単に扱える消火剤があるとよい。人畜無害の簡単に扱えるガスで消せる消火剤などが販売されている。市が斡旋することは出来ないが町会等がまとまって購入を考えることはできるのではないか。

行政は、万が一を考え、袋小路などには排水栓を設置することなども考えるが、皆さんの協力をお願いしたい。

また、収容人数については、被災状況で異なってくるが、避難所になっていない公共施設などもあるので、そのような場所も使用し皆さんの安全を確保していきたい。また、大型店とも協力体制を結んでいる。文京学院大学へもいざという時には逃げてもらっても構わないし、校舎や体育館を提供してもらおうという考えもある。今後、市内にある施設や介護事業所とも協定を結んだり、自治体間でも栃木県の日光市と山梨県の甲斐市、長野県の飯田市などの遠隔地とも災害応援の協定を結んでいる。

また、食料の問題についても話したい。食料については72時間、3日間の確保として、今の計画では、埼玉県1日、市1日、もう1日は皆さんの家庭で対応をお願いしたいと思っている。救援物資は2日目で来るかもしれないが、最低限は、このふじみ野市で頑張ろうということで計画している。

皆さんの家庭からということは、家の冷蔵庫内や野菜、お米などは無くなる前に買うと思うが、その少し前に確保しておくようにしてほしい。

市で備蓄している粉ミルクは賞味期限のこともあるので、保育所で使用しながら補充している。これは循環型の備蓄と言っているが、家でもお米などは、同じ様にして欲しい。

先ほど回答した、災害の想定人数の7千人は、体育館等の面積から定めたもの。平成20年3月に策定した地域防災計画では、地震発生1日後の避難者数は、11,363人としています。また、帰宅困難者は21,000人程度となっている。

◆タウンミーティングに来られない方への周知はどのように行うのか。

☆タウンミーティングの内容は、ホームページに出ている。その他に具体的な予定ではないが、まとめたものを市報の別刷りで出来ないか考えたい。

また、地域防災計画の概要版は色々な場所に置き、市役所の危機管理防災課にある。来年度、国、県の被害想定などを見て新たな地域防災計画を策定する。

◆家の隣に雨水を貯める貯水槽がある。災害時には水は大事なもので、この貯水槽の水は消防署が使用することは分かっているが、その水は煮沸をすれば飲む水なのではないかと思っている。そこで分析を行い、いざという時には飲料水として使えるようにしてほしい。1万本2万本の水があると言っても、この水を有効に活用できないだろうか。町会でも水を浄化する装置があるのは知っているが、それでは微量な水しか作れないので、貯水槽の水を活用していただきたい。

◆5、6年前、池袋から白子まで災害時にどれ位の人間が歩いて帰宅できるか訓練を行ったが、その際には、道路沿いのガソリンスタンドやコンビニエンスストアなどとトイレを協力的に使用させるという話があったが、ふじみ野市ではそのような協定はあるのか。

☆色々な民間企業、事業者とも協定している。

◆先ほどは、災害の時に文京学院大学が使えると言っていたが、実際、前の災害の時に行ってみたら閉まっていた、そこの職員が知らなくて中に入れなかった。役所の職員が来れなくても、直ぐに対応できる体制をお願いしたい。いざという時に使用できないのでは困る。また、先ほどの水の話だが、マンションの上の水タンクなどは利用できるのではないか。

☆話は分かるが、いざという時に入れないことは無い。

去年の3月11日に、ふじみ野市で水に困ったのはマンションだった。停電により使用できなくなってしまった。

◆関越自動車道のトンネルの補強は必要ないのか。

☆道路公団に確認すると、問題ないと回答を得ている。絶対ではないと思う。

災害対応は、その時に使えるか使えないかであり、協定を結んでいると事実を伝えたが、使える段取りをしても使えないこともある。

市役所だけを頼ってもだめで、防災拠点の指定職員が行けない場合もある。そのような時にどうするのかという話が重要だと考えている。

◆去年の3月11日には、大井総合福祉センターに居た。翌日回って見たが、あれだけ揺れたのにほとんど被害が無かった。今度の想定は6弱とすると、私の考えでは全てつぶれると思う。袋小路の入り口の家が倒れたらどうなるのか。

☆大原則は、自分の財産は自分で守る。古い家だから建て替えなさいとは言えない。対策が取れないのが事実。そこで、図上訓練を行った。自分の周りをよく見てもらい、この地域は木造建築の密集地などの危険を認識し、例えば、通り道がふさがれていても生垣を壊せば通れるなど考え、どのような危険があるかの訓練をしている。

◆この地域は年配者も多く、古い家も多い。

☆昭和56年が新しい耐震基準となり、一つの目安となっている。それ以前は耐震性が低いと言われているが、それ以前の建物でも木造の方が比較的、柔軟性があるとも言われている。古いから直ぐにつぶれてしまうということではない。それから、3月11日の東日本大震災の揺れと、阪神大震災の揺れでは地震の周期が異なり揺れ方が違った。東日本大震災の場合では、コンクリートの庁舎にひびが入った、崩れたなどもあったが、木造住宅がいきなりつぶれてしまったことは少なかった。沿岸部の津波被害が大規模だった。阪神淡路や新潟中越は、揺れ自体で家屋がつぶれたという例があった。地震の揺れ方にもよるので、古いだけで直ぐに危ないということでもない。

もし、自宅周辺の課題があれば、図上訓練を含めて町会で自主防災会を開催し、月に1度でも話し合いの機会を設けるのは大事なことだと思う。

その上で、市の危機管理防災課の担当を呼んでいただき、皆さんと話し合うなど、この地域特有の課題についての情報を共有するのも大事である。また、市に要望をするだけでなく、地域の課題などについて住んでいる皆さんの防災意識を高めていくことが大事だと思う。